



2014年1月10日  
イオン株式会社

## イオンとお客さまが植えた木々は、累計1,000万本を迎えました お客さまとともに、これまでも、これからも、イオンは木を植え続けます

1991年よりイオンがお客さまとともに世界で植え続けた木々は、2013年11月17日、イオンモール幕張新都心「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭において、累計1,000万本となりました。

イオンはこれからも植樹活動を通じて、地域の森づくりと生物多様性の保全にお客さまとともに取り組んでまいります。



【2013年11月17日イオンモール幕張新都心で行われた植樹一千万本記念碑除幕式】

### 地域に密着した小売業の特長を活かした環境保全活動

経済発展とともに自然が失われていく中、イオンは1960年代より「自然の恵みを失うことは、豊かさの根源を失うこと」と危機感を抱き、お客さまの暮らしを守る小売業としてできることは何かを考え続けました。そして、地域に密着した小売業だからこそできる環境保全活動として、お客さまとともに店舗敷地内に植樹する「イオン ふるさとの森づくり」を1991年にスタートしました。

さらに、自然災害などで荒廃した森の再生を目指し、1990年に設立された財団法人イオングループ環境財団（現 公益財団法人イオン環境財団）では、アジアを中心とした世界各国で行政、NPO、現地と日本のボランティアの方とともに植樹活動に取り組んでいます。

### お客さまとともに地域に植えた木々は1,000万本に

イオンは、20年以上にわたるこの2つの植樹活動を通じて、のべ100万人の方々とともに1,000万本の木を植えました。植樹活動には、小さいお子さま連れのご家族も多くご参加いただいています。植えた苗木は、植樹にご参加いただいたお子さまの成長とともに大きく育ち、「イオン ふるさとの森」として地域の方々に親しまれています。

## これまでのイオンの植樹活動に関する取り組み

- 1965年 岡崎オカダヤ（愛知県）開店時に1,000本の桜を岡崎市に寄贈  
三重県で創業した岡田屋が県外初出店する際に、「桜を植えてほしい」という地域の方からの声を受け、桜1,000本を寄贈しました。岡崎公園や伊賀川堤に植えられた1,000本の桜は立派に成長し地域の憩いの場となりました。「イオン ふるさとの森づくり」の原点ともいえる取り組みです。
- 1990年 財団法人イオングループ環境財団（現 公益財団法人イオン環境財団）設立
- 1991年 「イオン ふるさとの森づくり」スタート  
マレーシア・ジャスコマラッカ店（現 イオンマラッカショッピングセンター）開店以来、新店オープンの際に地域に自生する木々を植樹しています。国内では、1992年に三重県のジャスコ新久居店（現イオン久居店）からスタートしました。
- 1998年 「万里の長城・森の再生プロジェクト」スタート  
2010年には、累計植樹本数が100万本に達しました。
- 2010年 イオン生物多様性方針策定  
事業活動における生態系への影響を把握し、お客さまや行政、NGOなどと連携しながら、生態系への影響の低減・保全活動を積極的に行っています。
- 2011年 イオンサステナビリティ基本方針策定  
「低炭素社会の実現」「生物多様性の保全」「資源の有効利用」「社会的課題への対応」を4つの重点課題とし、それぞれに指標を設けて進捗管理を行っています。  
「ジャカルタ植樹」スタート  
インドネシア・ジャカルタで沿岸部の防潮林の再生を目指し、3年間で日本のボランティア3,400人を含む5,000人のボランティアの方々と63,000本のマングローブを植樹しました。
- 2012年 「復興への願いをカタチに」30万本植樹スタート
- 2013年 植樹本数1,000万本  
11月17日、イオンモール幕張新都心「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭で累計1,000万本を迎えました。当日は、地域の方々と従業員合計3,500人で5万本の苗木を植えました。



【「イオン ふるさとの森づくり」  
1号店・ジャスコマラッカ店  
（現 イオンマラッカショッピングセンター）】



【「イオン ふるさとの森づくり」国内1号店・  
ジャスコ新久居店（現イオン久居店）】

イオンは、日々のいのちとくらしを守り、水と緑の地球を未来の子どもたちに引き継ぐため、これからも地域のお客さまとともに木を植え、森を育てる活動に取り組んでまいります。

## イオンの植樹活動

イオンは、植樹活動を「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念を具現化する活動として位置づけています。小売業だからこそできる地域に密着した環境保全活動を通じて、地域の方々と自然を大切にすることを共有したいという想いのもと、イオンはお客さまとともに木を植えています。



1 地域の自然環境に最も適した、その土地本来の樹木の植樹を行っています。



2 その土地本来の樹木を数十種類取り混ぜて植えることで、成長を競い合わせる方法を取り入れています。



3 それぞれの地域のお客さまが主役となり、小さな苗木を1本1本植えていただきます。

また、イオンの植樹活動は、植物生態学の世界的権威である横浜国立大学の宮脇昭名誉教授にご指導いただき、「その土地本来の樹木を種々取り混ぜて植え、成長を競わせる」などの工夫をしています。その地域に適した樹種の苗木を、地域の方々の手によって植えていただくことで、いつまでも親しまれる地域の森に育っていきます。

### ◆地域に密着した小売業の特長を活かした環境保全活動「イオン ふるさとの森づくり」

イオンは、植えた苗木が地域の森へと成長するように、新しくできるお店が地域に根ざし、お客さまに愛されるコミュニティの場となること、緑を育む心が地域の方々に広がることを願い、「イオン ふるさとの森づくり」を実施しています。現在、日本、中国、マレーシア、ベトナムなど約850店舗で「イオン ふるさとの森」が育っています。参加されたお客さまからは、「植えた苗木が子どもの成長とともに大きくなっていくのが楽しみ」、「初めて植樹をしたが、とてもいい経験になった」などのお声をいただいています。



【(左) 2013年11月17日、植樹1,000万本達成したイオンモール幕張新都心「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭  
(右) 2013年11月24日、「イオン ふるさとの森づくり」ベトナム1号店・イオンモールタンフーセラドン】

### ◆大きな木へ、立派な森へと育てるための育樹活動

イオンは、木を植えるだけでなく、森へと成長するよう植樹後の維持・管理も行っています。植樹後3～5年を目処に取り組む育樹活動では、補植や下草刈りなどを行います。

「イオン ふるさとの森」育樹祭は、植樹の翌年以降も地域の皆さまに再びお越しいただき、従業員とともに植えた苗木の手入れを行う取り組みです。地域の皆さまに苗木の成長を見ていただくとともに、お店の従業員とお客さまが交流する機会にもなっています。

また、従業員を対象とした森の管理に関する講習会を定期的に行い、「イオン ふるさとの森」がより立派な森となるよう全社をあげて取り組んでいます。

### ◆国境を越え地球環境の保全に取り組むイオン環境財団の植樹活動

1990年に設立した公益財団法人イオン環境財団は、これまでに日本・アジアを中心に10カ国30カ所で植樹活動を行っています。特に海外での植樹活動は、植樹地と日本から参加されたボランティアで協力して作業を行うため、国際交流の場ともなり、緑とともに両国友好の輪も広がっています。

1998年から2010年にかけて行った「万里の長城・森の再生プロジェクト」では、森に囲まれたかつての万里の長城を再生するため、日中のボランティアの方々とともに100万本の木々を植えました。昨年は、植樹1,000万本を記念して万里の長城に植樹した木々を手入れする「北京万里の長城育樹」を実施し、日中のボランティア600人の方々で補植や下草刈りを行いました。

今年も日本をはじめベトナムやミャンマーなどアジアでの植樹活動を実施する予定です。



【2000年「第3回万里の長城・森の再生プロジェクト」】



【2008年緑が広がった万里の長城】

### ◆ 3. 11復興への願いをカタチに 東北被災地で30万本の植樹活動

東日本大震災で津波が起きた際、「イオン ふるさとの森」の一部が車や家具などの漂流物を止め、減災の役割を果たした店舗もありました。これを受け、津波によって失われた東北の緑を再生し、万が一の津波被害に備え防潮林の役割を果たすべく、東北の沿岸部を中心に2012年から10年にわたり30万本の木を植える「イオン 東北復興ふるさとの森づくり植樹」に取り組んでいます。現在、宮城県石巻市や気仙沼市などで37,000本を植樹しています。



【(左) 2013年3月イオンスーパーセンター石巻東店 津波で流された「イオン ふるさとの森」の再植樹  
(右) 2013年9月気仙沼市大島 地震火災で消失した森を再生する「新しい未来へ イオンふるさとの森づくり」】

また、全国のお客さま、従業員による「イオン 東北復興ふるさとの森 苗木の里親キャンペーン」にも取り組んでいます。これは各家庭で東北に植える苗木を1、2年育てていただく復興支援活動です。植樹できるまでに育った苗木は、イオンが責任を持ってお預かりし、東北の植樹地で地元の皆さまとともに沿岸部へ植樹します。現在、全国で19,200人の方々で里親として苗木を育てています。

## 植樹 1,000万本記念

植樹活動の大きな節目を迎えた2013年、これまでのお客さまのご協力に感謝の気持ちを込め、また、イオンの取り組みを知っていただき、これからも多くの方々にご賛同いただけるよう各店舗でさまざまな取り組みを行いました。

### ◆1 message → 1 tree AEON 想いの木

2013年4月から8月まで、「1 message → 1 tree AEON 想いの木」活動を実施しました。これは、植樹や自然環境に対する想いを店頭や特別サイトで募集し、寄せられたメッセージと同数の木を東日本大震災の津波被害を受けた東北の沿岸部に植樹するものです。

期間中、全国のお客さまから20万を超えるメッセージをお寄せいただきました。これを受け、来年以降、東北沿岸部に同じ本数の木を地元の皆さまとともに植樹します。

### ◆わたしの好きな木

日本、中国、マレーシアでは、店舗周辺で環境活動に取り組む小中学生「イオンチアーズクラブ」のメンバーが、各店舗の「イオン ふるさとの森」の中から好きな木を選び、樹木板にその樹種を書いて木に取り付けました。樹木板は東日本大震災による津波で枯れた木で作られており、子どもたちが木への想いを深める機会になるとともに、東日本大震災の風化防止にもつながっています。

【津波により立ち枯れた岩手県陸前高田市の杉を利用した樹木板】



### ◆イオン 東北復興ふるさとの森 苗木の里親キャンペーン

植樹本数が1,000万本を迎えた2013年11月、「イオン 東北復興ふるさとの森 苗木の里親キャンペーン」の一環として全国のイオンの従業員と「イオンチアーズクラブ」のメンバー、イオンモール幕張新都心「イオン ふるさとの森づくり」植樹祭の参加者に苗木を配布しました。沖縄から北海道まで16,700人の里親が来年の東北での植樹に向け、苗木を育てています。

### ◆森の循環（植える・育てる・活かす）をテーマに「エコプロダクツ2013」へ出展

12月に開催された国内最大級の環境イベント「エコプロダクツ2013」では、「イオンの森の循環プロジェクト（植える・育てる・活かす）」と題し、これまでの植樹活動や環境に配慮した商品の紹介、木を使ったワークショップなどを通じて自然の大切さ、森づくりの意義をPRしました。本物の木々で「イオン ふるさとの森」を再現したイオンブースには、3日間で2万人を超える来場があり、イオンの植樹活動について知っていただく貴重な機会となりました。12月12日には、天皇皇后両陛下が「エコプロダクツ2013」にご来場され、イオンのブースもご視察されました。



【イオンブースで植樹活動について従業員が説明】



【イオンブースをご視察される天皇皇后両陛下】